

# 資料 3

## 長崎県内の乳がん検診の実績について

〔 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)  
2023.03 公表値より 〕

2024.1.31

長崎県保健医療対策協議会  
がん対策部会乳がん委員会

# ▶ 1.乳がん検診受診率の状況

▶ 地域保健・健康増進事業報告(厚労省)公表値によると、令和2年度(長崎県)は 13.3%で、全国平均15.4 %を下回り、全国39位。

受診率 = (当該年度受診者数 + 前年度受診者数 - 2年連続受診者数) / 当該年度対象者数 \* 100

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
全国	17.4	25.3	26.1	20.0	18.2	17.4	17.2	17.0	15.6	15.4
長崎	17.5	27.4	28.1	22.6	15.7	18.3	15.6	15.6	14.0	13.3

検査項目: ——— 視触診及びマンモグラフィ ———> ←———— マンモグラフィ ————

算出年齢: ———> ←———— 40~69歳 ————

対象者: 40歳以上 ←———— 「就業者数」を除外しない ————

※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、H27年度以前の経年的な比較はできない。

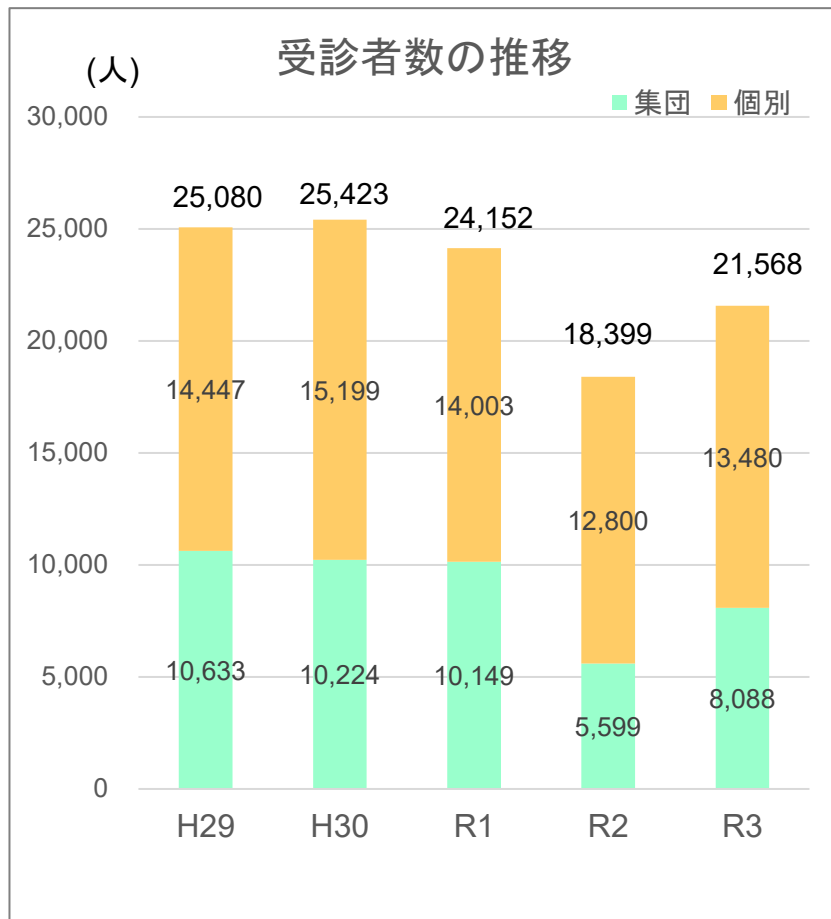
※受診率が比較可能なH28以降で比較すると、全国・長崎ともに年々低下傾向。特にR2は新型コロナウイルス感染拡大の影響があると思われる。

## 2. 乳がん検診受診者数と受診率

(40～69歳)

### 1) 受診者数の推移

- ▶ 受診者数は、年々減少している。個別検診が多い。  
R2年度に大きく減少し、R3年度に回復したが、R1年度まで回復していない。



(40-69歳)	H29	H30	R1	R2	R3
集団	10,633	10,224	10,149	5,599	8,088
個別	14,447	15,199	14,003	12,800	13,480
合計	25,080	25,423	24,152	18,399	21,568

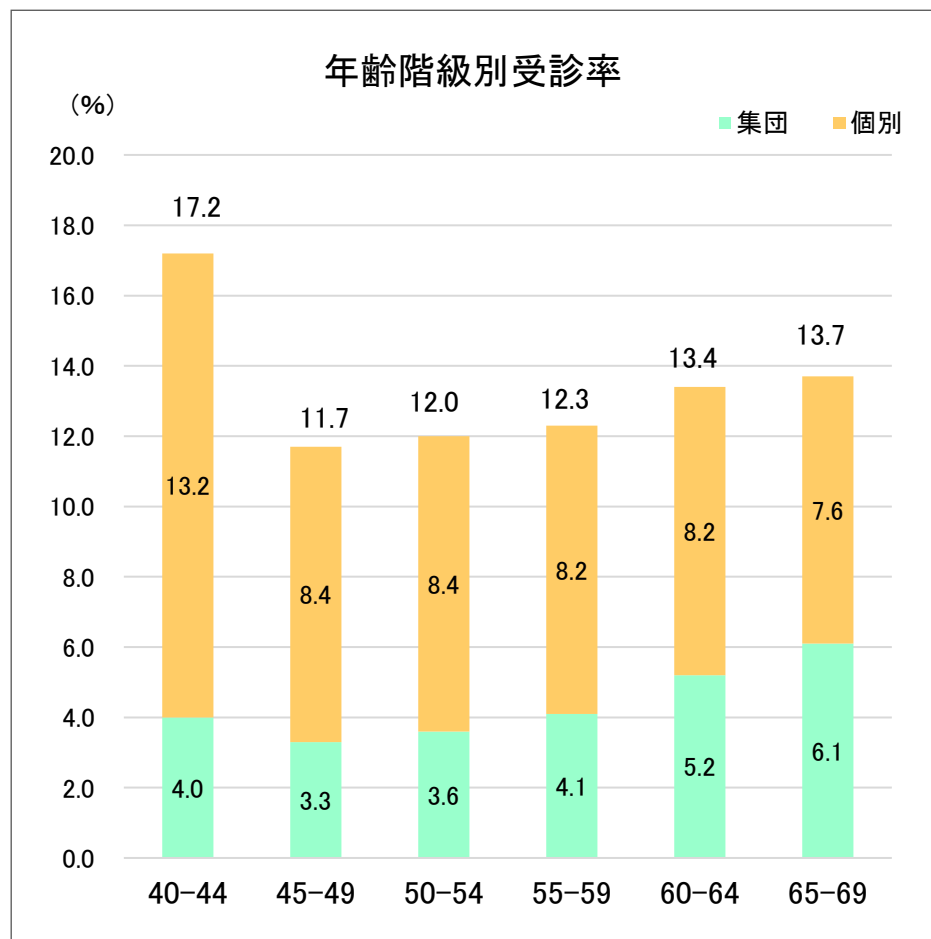
#### 【参考】

(全年齢)	H29	H30	R1	R2	R3
集団	14,560	14,322	14,726	8,265	12,070
個別	16,869	17,956	17,273	15,718	16,881
合計	31,429	32,278	31,997	23,983	28,951

※H29・R3は不詳を含む

## 2)令和3年度年齢階級別受診率

▶ 受診率は、40～44歳が最も高く、45歳以上では年齢階級が上がるにつれて高くなる傾向がみられた。集団検診では年齢階級が高くなるにつれ受診率が高くなり、個別検診では低くなる傾向がみられた。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
40-44	集団	38,516	983	4.0
	個別		2,728	13.2
	計		3,711	17.2
45-49	集団	44,421	996	3.3
	個別		2,058	8.4
	計		3,054	11.7
50-54	集団	44,316	1,039	3.6
	個別		2,122	8.4
	計		3,161	12.0
55-59	集団	42,549	1,194	4.1
	個別		1,928	8.2
	計		3,122	12.3
60-64	集団	47,147	1,635	5.2
	個別		2,243	8.2
	計		3,878	13.4
65-69	集団	52,806	2,241	6.1
	個別		2,401	7.6
	計		4,642	13.7

地域保健・健康増進報告(厚労省)

### 3.令和2年度乳がん検診成績

(40～69歳)

#### 1)令和2年度乳がん検診成績

年齢階級	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診						精検結果別人数						陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	非浸潤がん I/G
				あり C	精検受診率 C/B	なし D	精検未受診率 D/B	未把握 E	精検未把握率 E/B	異常なし F	がん G	早期がん H	非浸潤がん I	がん疑い及び未確定 J	がん以外の疾患 K				
40-44	3,492	387	11.1	358	92.5	9	2.3	20	5.2	133	4	2	0	6	215	1.03	0.11	50.0	0.0
45-49	2,669	279	10.5	261	93.5	7	2.5	11	3.9	88	16	8	3	6	151	5.73	0.60	50.0	18.8
50-54	2,667	227	8.5	204	89.9	6	2.6	17	7.5	74	11	4	2	3	116	4.85	0.41	36.4	18.2
55-59	2,694	180	6.7	158	87.8	6	3.3	16	8.9	69	14	8	3	6	69	7.78	0.52	57.1	21.4
60-64	3,218	211	6.6	196	92.9	5	2.4	10	4.7	97	17	12	4	2	80	8.06	0.53	70.6	23.5
65-69	3,604	188	5.2	177	94.1	4	2.1	7	3.7	82	16	10	1	3	76	8.51	0.44	62.5	6.3
合計	18,344	1,472	8.0	1,354	92.0	37	2.5	81	5.5	543	78	44	13	26	707	5.30	0.43	56.4	16.7

【参考】

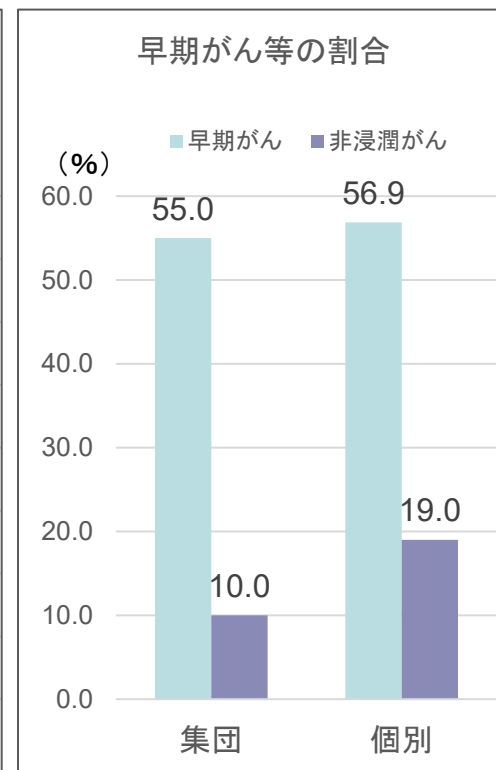
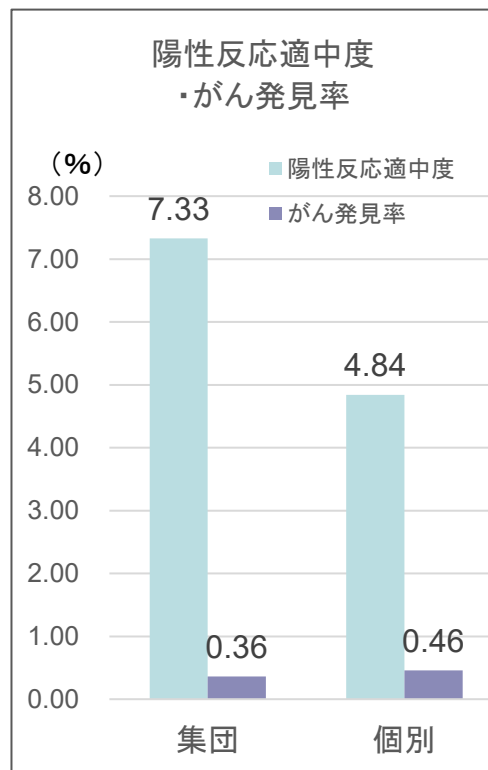
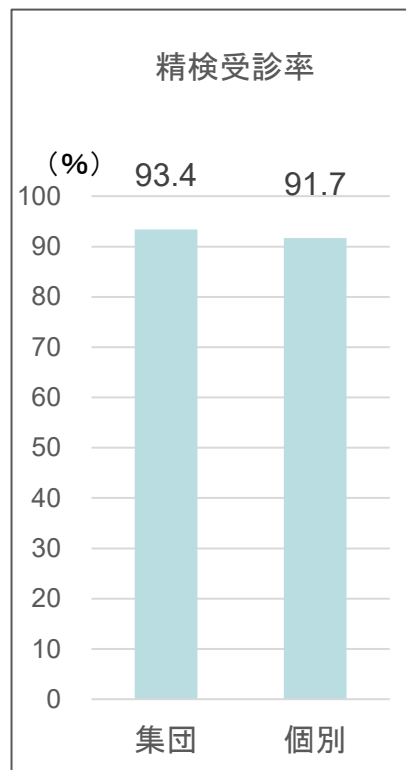
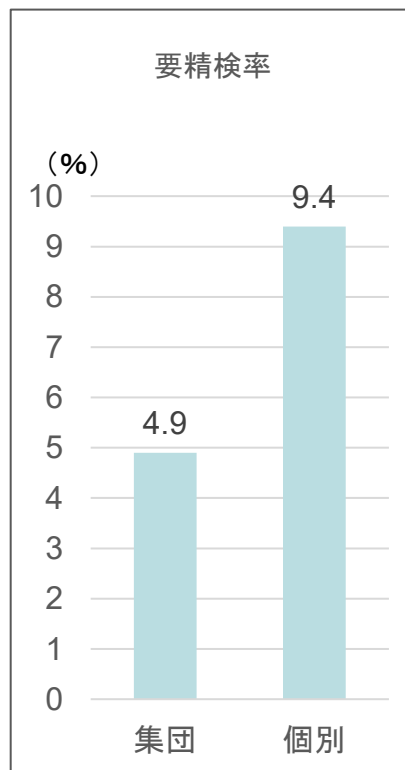
70歳以上	5,571	316	5.7	283	89.6	6	1.9	27	8.5	148	28	17	7	6	101	8.86	0.50	60.7	25.0
-------	-------	-----	-----	-----	------	---	-----	----	-----	-----	----	----	---	---	-----	------	------	------	------

## 2) プロセス指標の集団と個別の比較

▶ 要精検率は、集団検診より個別検診が高かった。

精検受診率は、集団検診のほうがやや高かった。

陽性反応適中度は集団検診が高く、がん発見率は個別検診が高かった。



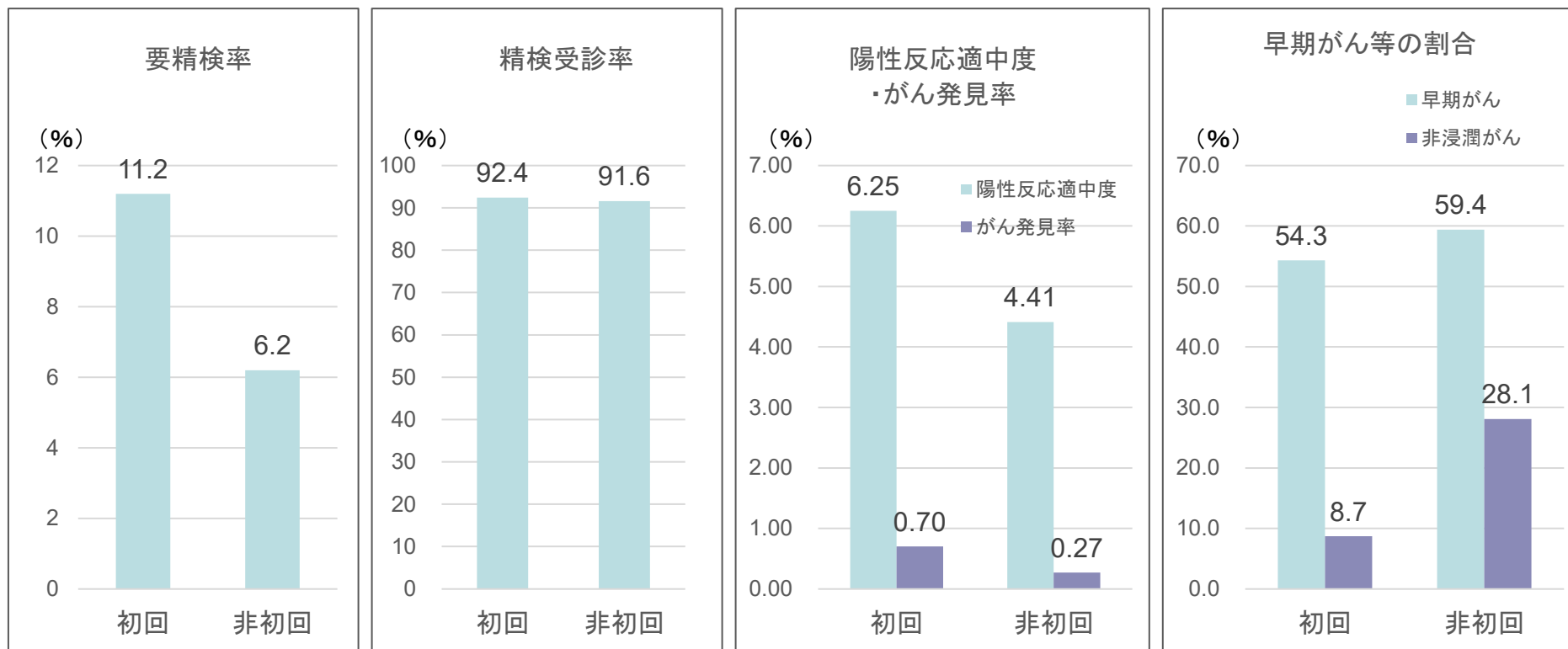
## 4) プロセス指標の受診歴別(初回・非初回)の比較



要精検率は、非初回より初回が高かった。

陽性反応適中度、がん発見率のいずれも非初回より初回が高かった。

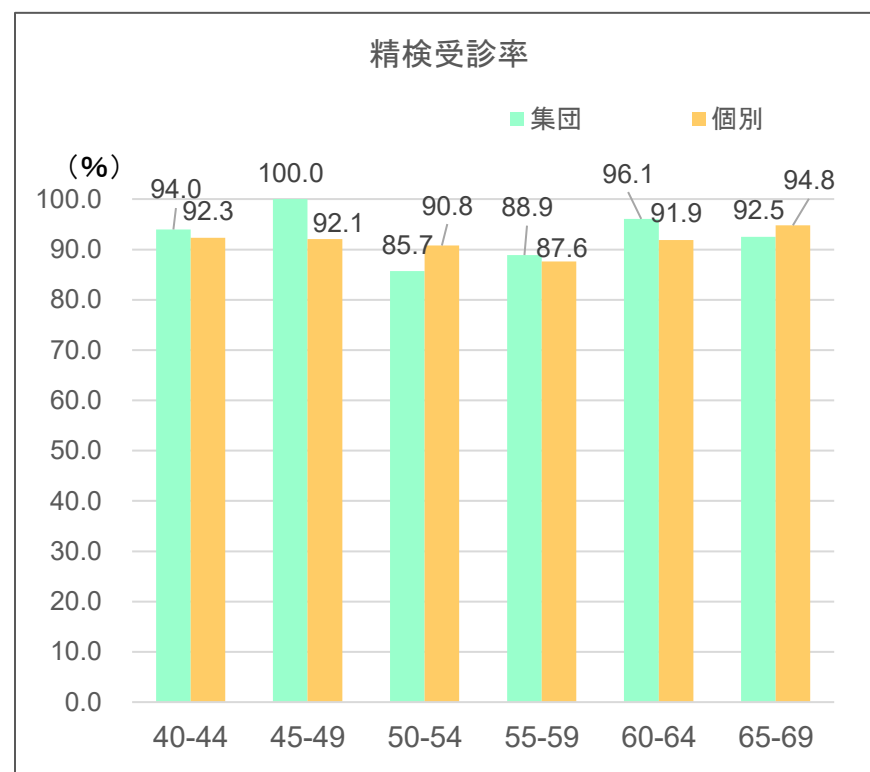
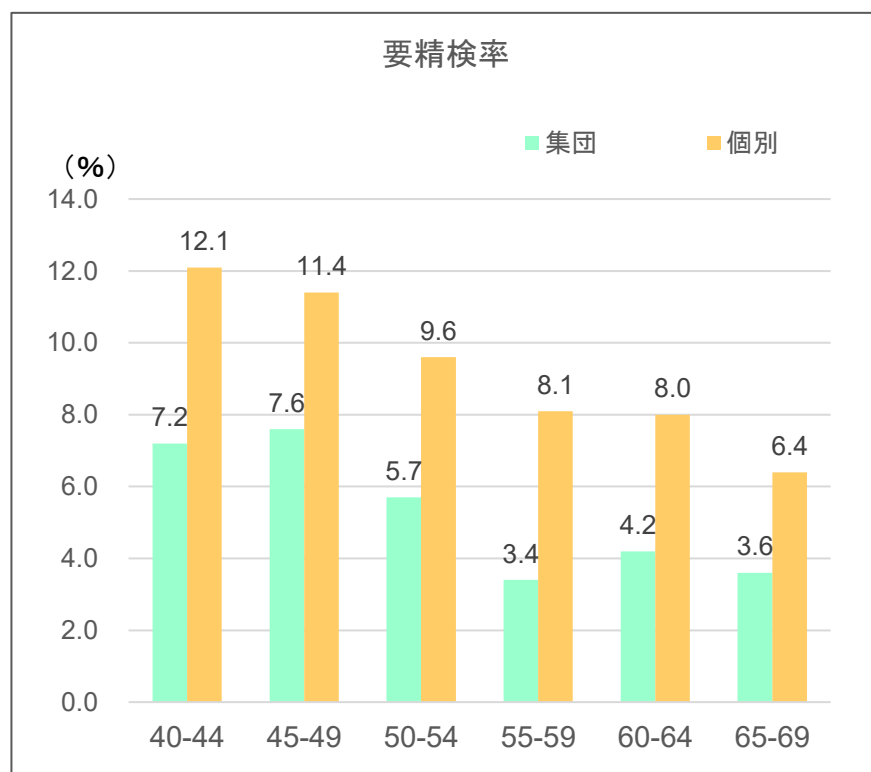
発見がんに占める早期がんや粘膜内がんの割合は非初回が高かった。



## 5)年齢階級別 の比較

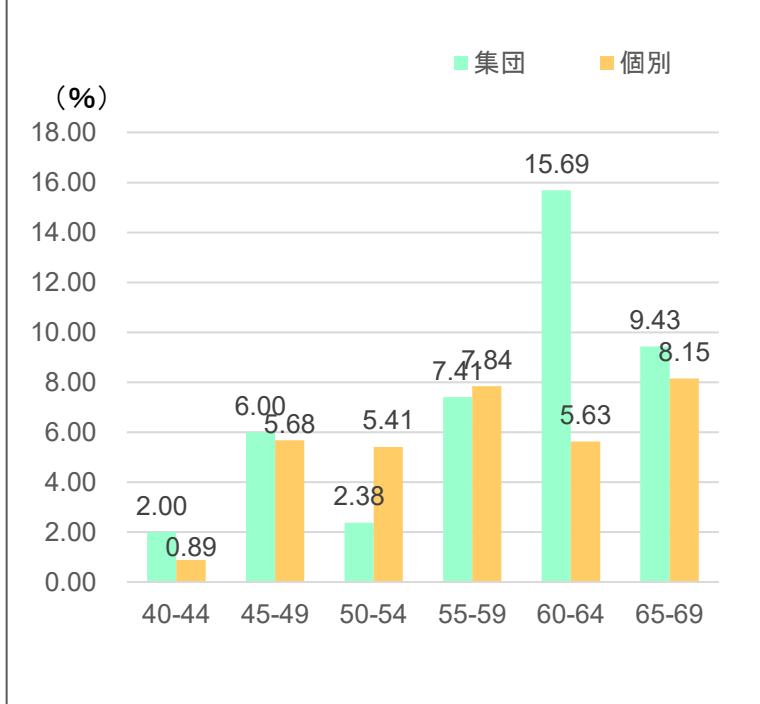
▶ 要精検率は全ての年代で、個別検診のほうが高く、年齢階級が上がるにつれて低くなる傾向がみられた。

精検受診率は、50-54・55-59でやや低くなる傾向がみられた。

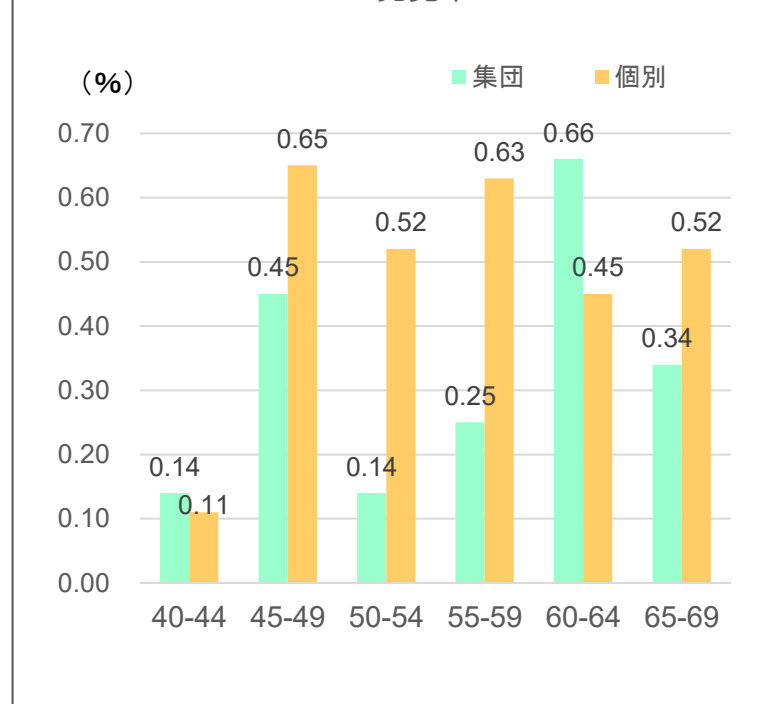




陽性反応適中度



がん発見率



## ▶ 4.国の示す許容値及び目標値

各がん検診に関する事業評価指標とそれぞれの許容値及び目標値(案)

		乳がん	子宮頸がん	大腸がん	胃がん	肺がん
精検 受診率	許容値	80%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上
	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
要精検率(許容値)		11.0%以下	1.4%以下	7.0%以下	11.0%以下	3.0%以下
がん発見率(許容値)		0.23%以上	0.05%以上	0.13%以上	0.11%以上	0.03%以上
陽性反応適中度(許容値)		2.5%以上	4.0%以上	1.9%以上	1.0%以上	1.3%以上

H20年 国立がん研究センター公表

その後、見直し検討が行われ、R5年に新基準値が公表された。

# 国の示す(新)基準値

	胃がん (エックス線)		大腸がん	肺がん (1年間隔)		乳がん (2年間隔)		子宮頸がん		
	2年間隔	1年間隔		検診以外の受診を考慮	連続受診を考慮					
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
現在の許容値	11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
現在の許容値	0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
現在の許容値	1.0%以上		0.19%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の 2年連続受診者割合**						30%		40%		

**乳がんの指標**

\* 子宮頸がんはCIN3以上に対する値

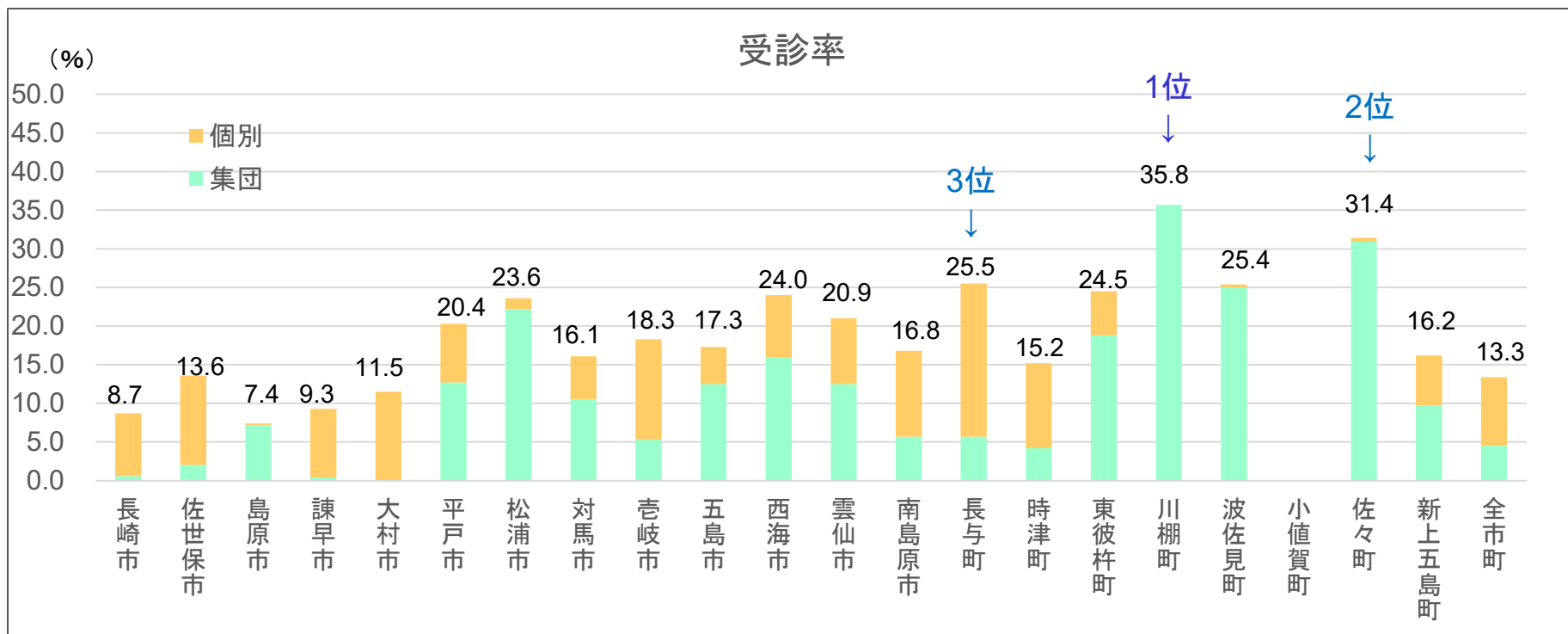
\*\* 国民生活基礎調査から算出したおよその現状の値

# 5.精度管理(プロセス指標)の意味と解釈

## 1)令和 3年度市町別受診率

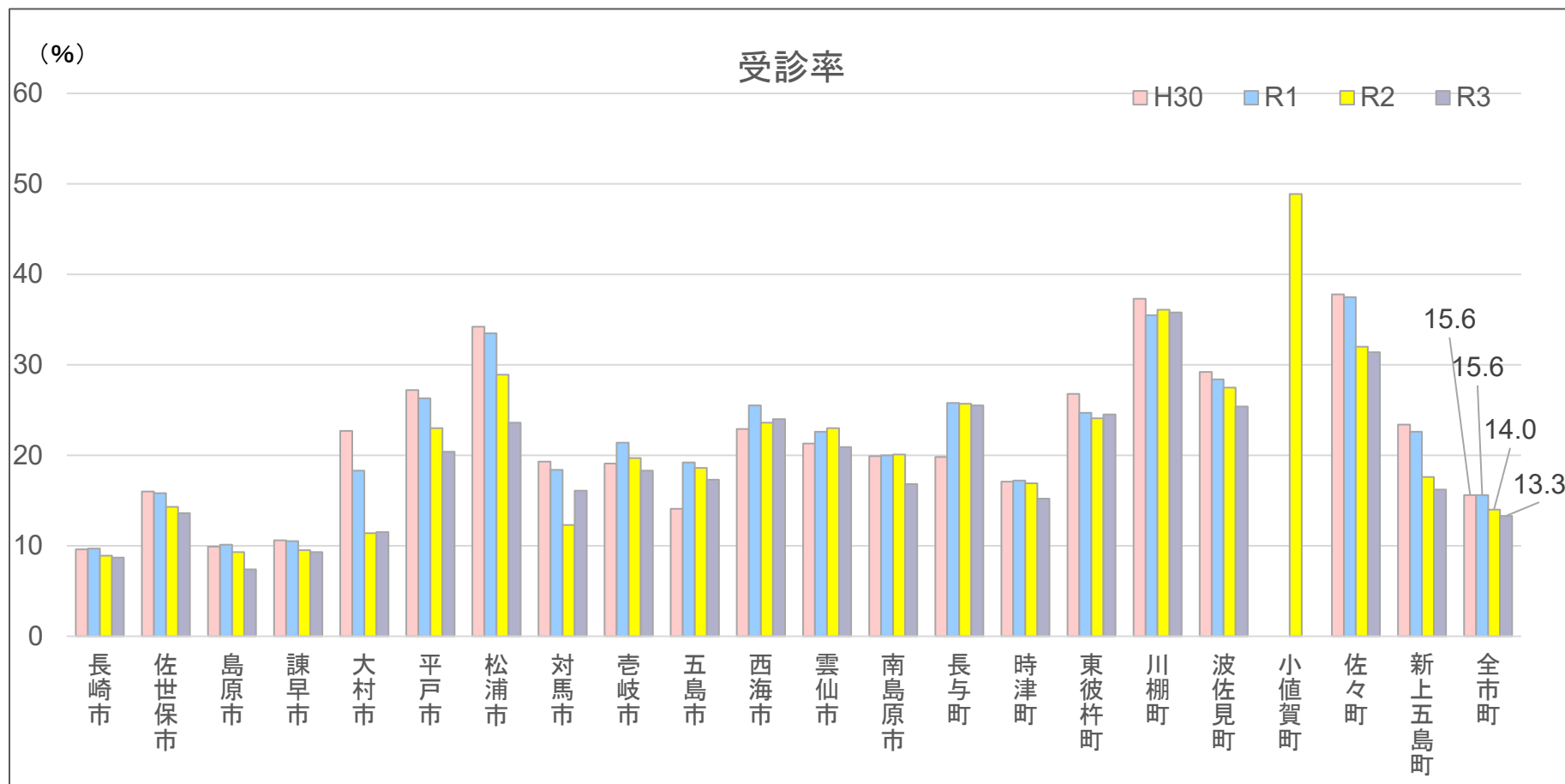
- ・受診率 = (R3年度受診者数 + R2年度受診者数 - 2年連続受診者数) / 対象者数
- ・目的:がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合。受診率は高いことが望ましい。
- ・目標値:50%以上(第3期がん計画)

- 低い場合
  - ・考えられる原因
    - 受診勧奨が不十分
    - 市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。
    - 職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。
  - ・県全体として、目標値を満たしていない。



## 2) 年度別市町別受診率

- ほとんどの市町で減少している
- 上昇傾向の市町:なし



### 3)令和 2年度要精検率

- ・要精検者数／検診受診者数
- ・目的:精密検査の対象者が適切に選ばれているか
- ・目標値:設定なし

(旧)・許容値: 11.0%以下



(新)・基準値: 6.8%以下[40-69歳、2年間隔]

#### ●高い場合

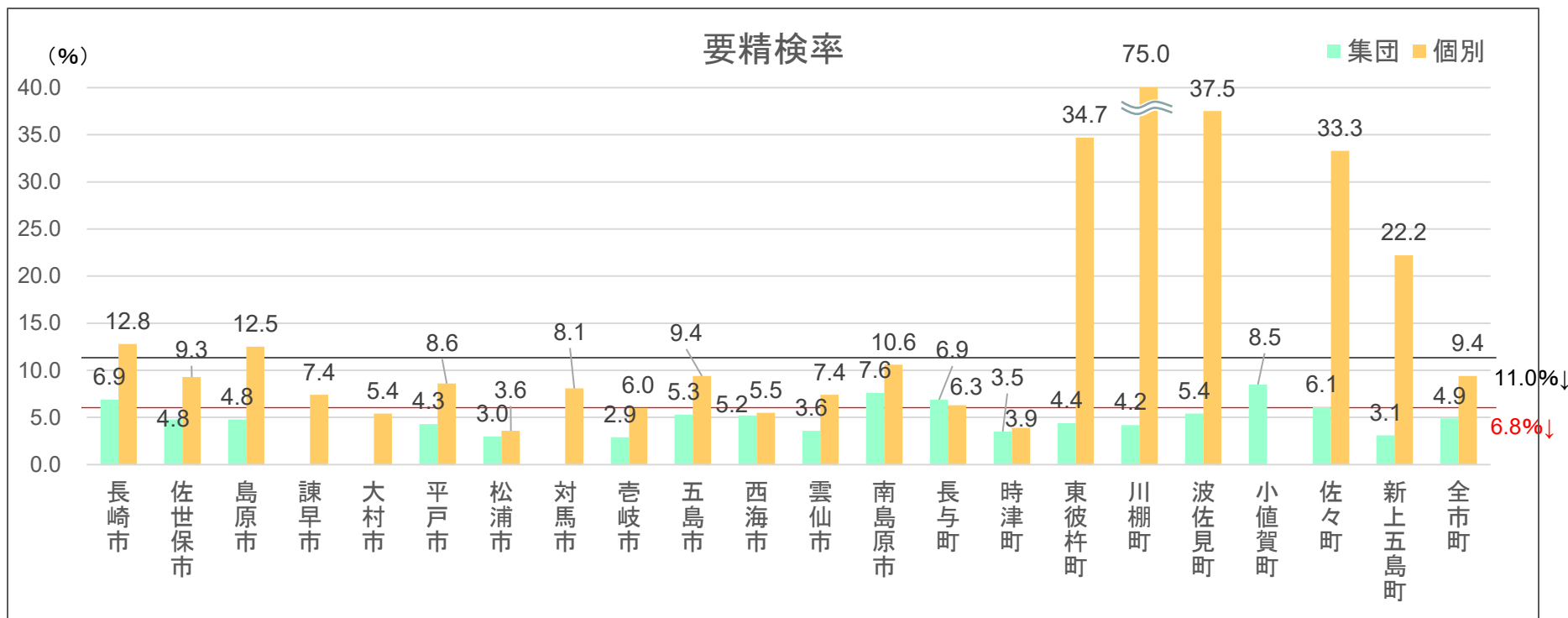
- ・考えられる原因

要精検者の計上は適切か。

有症状者が、がん検診を受診していないか。

- ・市町は検診形態でばらつきがあり、個別が高い傾向にある。

県全体としては、集団検診は(新)基準値も満たしていたが、個別検診は(旧)許容値は満たすが(新)基準値は満たしていない。



## 4)令和 2年度精検受診率

- ・精検受診者数／要精検者数
- ・目的:要精検者が精密検査を受診したか
- ・高いほど良い。(精検受診率が100%近くなければ、  
発見率を正しく評価できない)

(旧)・目標値: 90%以上 ・許容値: 80%以上



(新)・基準値: 90%以上

### ●低い場合

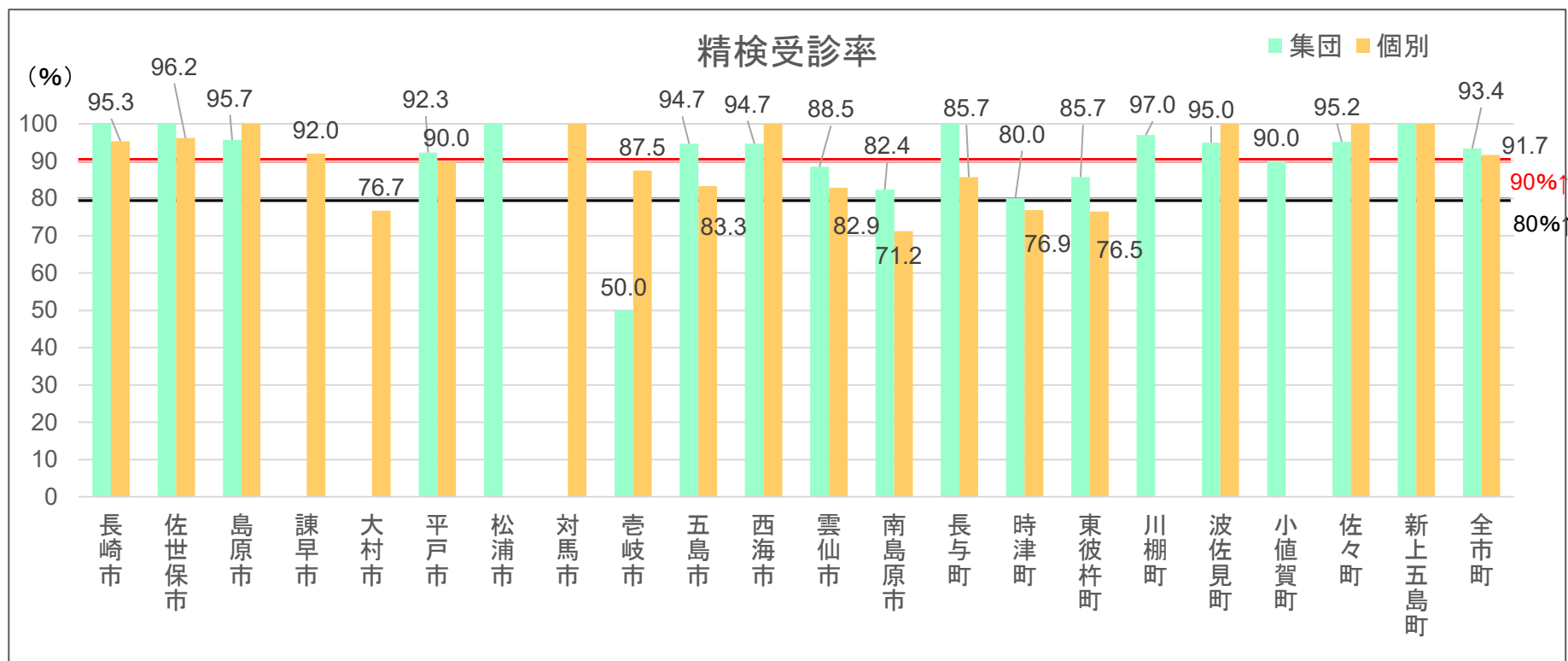
- ・考えられる原因

精検の受診勧奨が不十分。

精検受診の有無を市町が確実に把握できる体制が不十分。

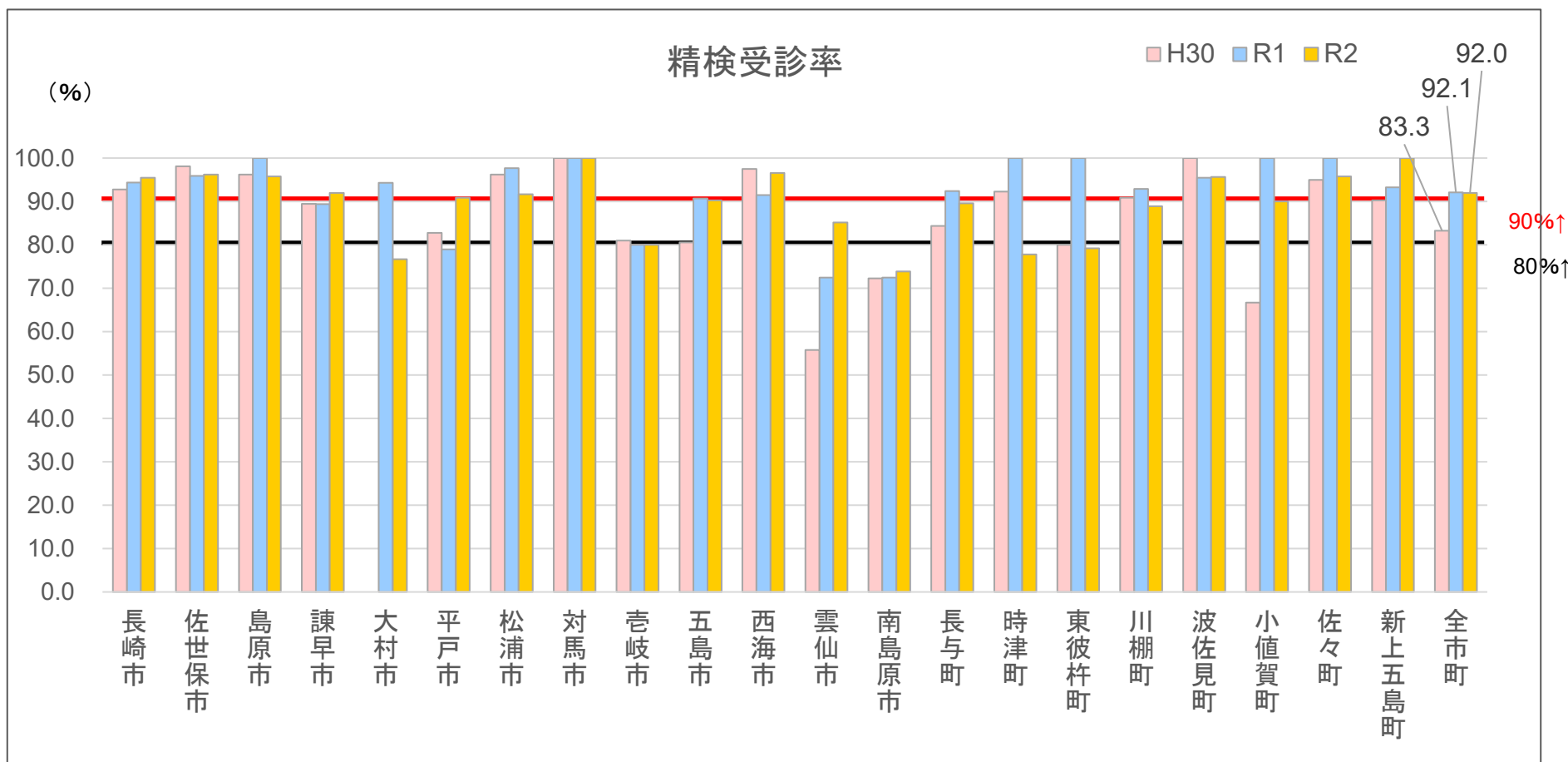
- ・(新)基準値を満たしていない市町がみられる。

県全体では、集団も個別も(新)基準値を満たしている。



## 5) 年度別精検受診率

- 3年連続90%以上の市町:長崎市・佐世保市・島原市・松浦市・対馬市・西海市・波佐見町・佐々町・新上五島町
- R2年100%の市町:対馬市・新上五島町





## 6)令和2年度陽性反応適中度

- ・がんであった方の数／要精検者数
- ・目的:検診で効率よくがんを発見されたかを測る

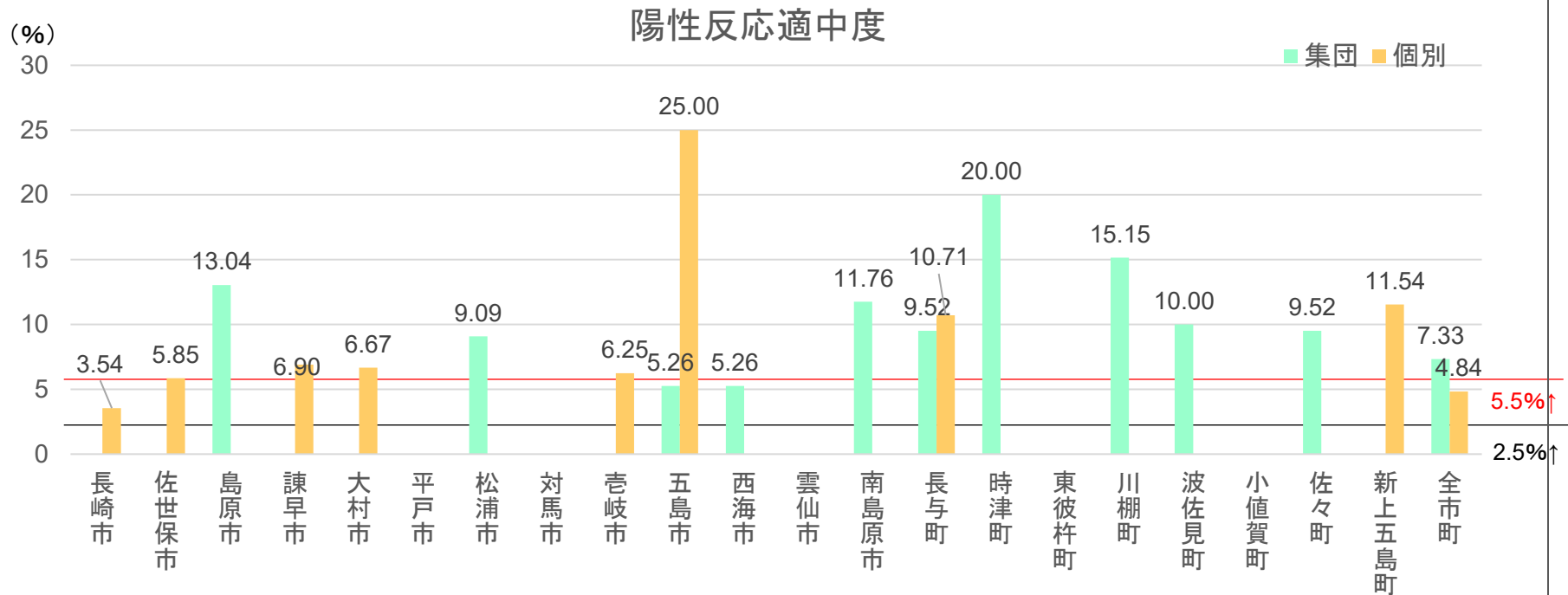
(旧)・許容値: 2.5 %以上

↓

(新)・基準値: 5.5%以上[40-69歳、2年間隔]

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。  
「陽性反応適中度」は、県全体の評価を基本として考えると、県全体では、集団個別共に許容値を満たしていた。

・市町では、ばらつきが多い。県全体としては、集団検診は(新)基準値を満たしている。個別検診は(旧)許容値は満たしているが(新)基準値は満たしていない。



## 7) 令和2年度がん発見率

- ・がんであった方の数／検診受診者数
- ・目的: その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか

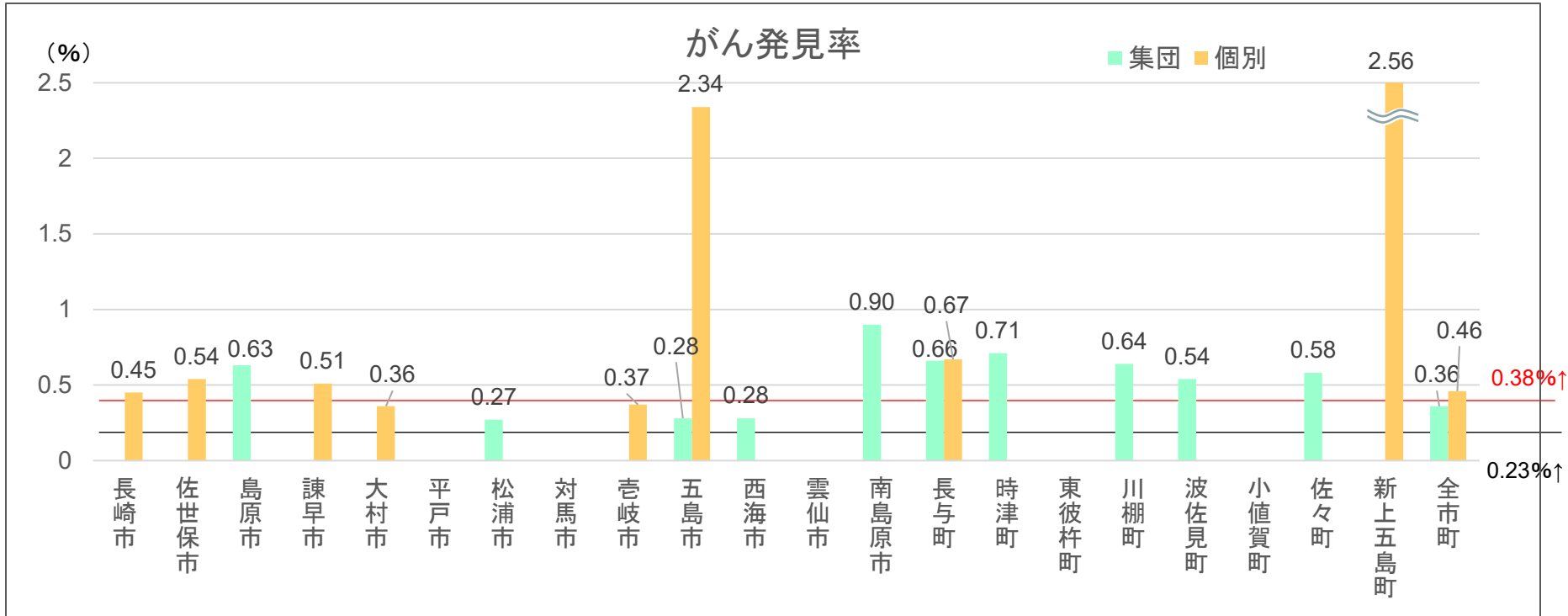
(旧)・許容値: 0.23%以上

↓

(新)・基準値: 0.38%以上[40-69歳、2年間隔]

人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。  
「がん発見率」は、県全体の評価を基本として考えると、県全体では集団個別共に、許容値を満たしていた。

・市町ではばらつきが多い。  
県全体としては、集団検診は(旧)許容値は満たしているが(新)基準値は満たしていない。個別検診は(新)基準値を満たしている。



## 8)R 2年度 偶発症

▶ 長崎県では偶発症は報告されていません。

### 【検診時 もしくは 検診後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	1	...	-	-
個別	2	...	-	-
合計	3	...	-	-

### 【精密検査時 もしくは 精密検査後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数 (再掲)	偶発症確認	死亡数 (再掲)
集団	3	...	-	-
個別	7	...	-	-
合計	10	...	-	-

## 6.まとめ

### 受診率、精検受診率について

- ▶ 受診率で目標値を満たしている市町はなかった。  
精検受診率は、(新)基準値を満たしていない市町がみられる。県全体では、集団検診も個別も(新)基準値を満たしている。精検受診率をさらに向上させるためには、精密検査の受診勧奨を行うことに加えて、精検医療機関からの情報を、市町が適切に把握できるような体制を整えることが必要である。

### 要精検率について

- ▶ 各市町、検診形態(集団、個別)によりばらつきがあり、個別検診で高い傾向がみられた。県全体としては、集団検診は(新)基準値を満たしているが、個別検診は(旧)許容値を満たしているが(新)基準値を満たしていない。

### がん発見率、陽性反応適中度について

- ▶ 人口規模が異なるので、市町毎に評価することは困難である。  
陽性反応適中度は、県全体では、集団検診は(新)基準値を満たしているが、個別検診は(旧)許容値を満たすも(新)基準値を満たしていない。  
がん発見率は、県全体では集団検診は(旧)許容値を満たすも(新)基準値を満たしていないが、個別検診は(新)基準値を満たしている。